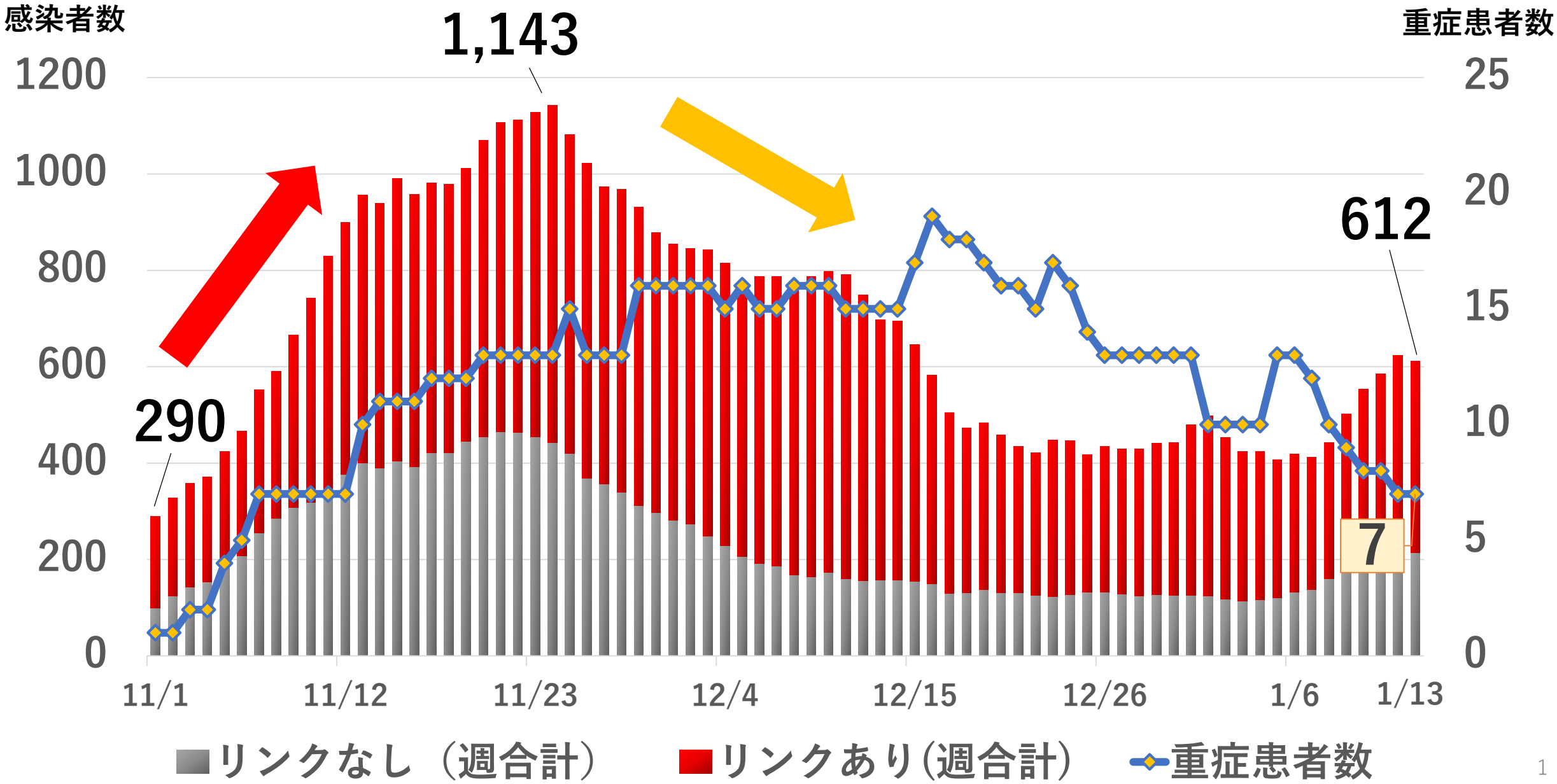
資料２－２

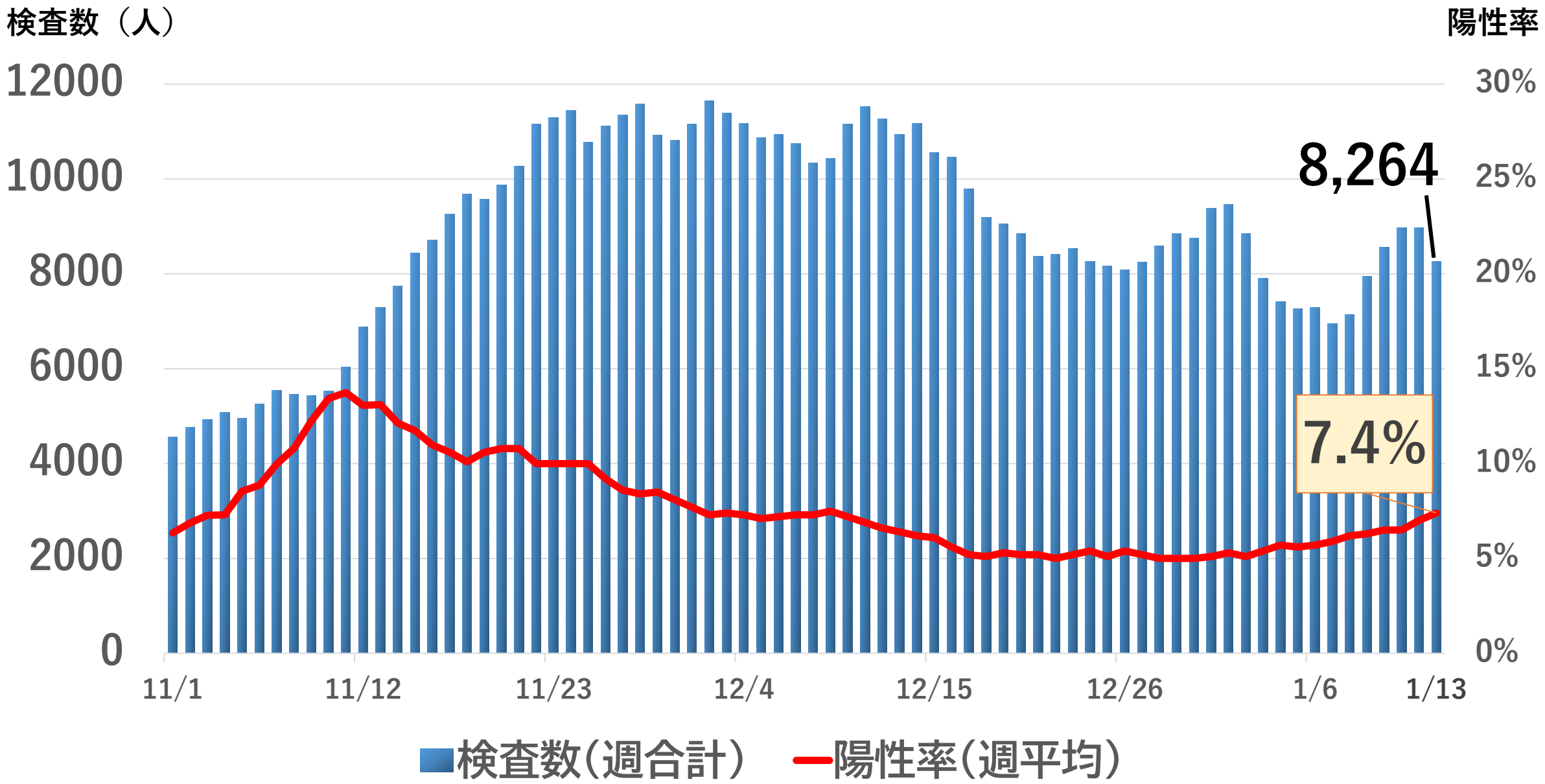
札幌市の感染状況について

令和３年１月14日
札幌市保健所

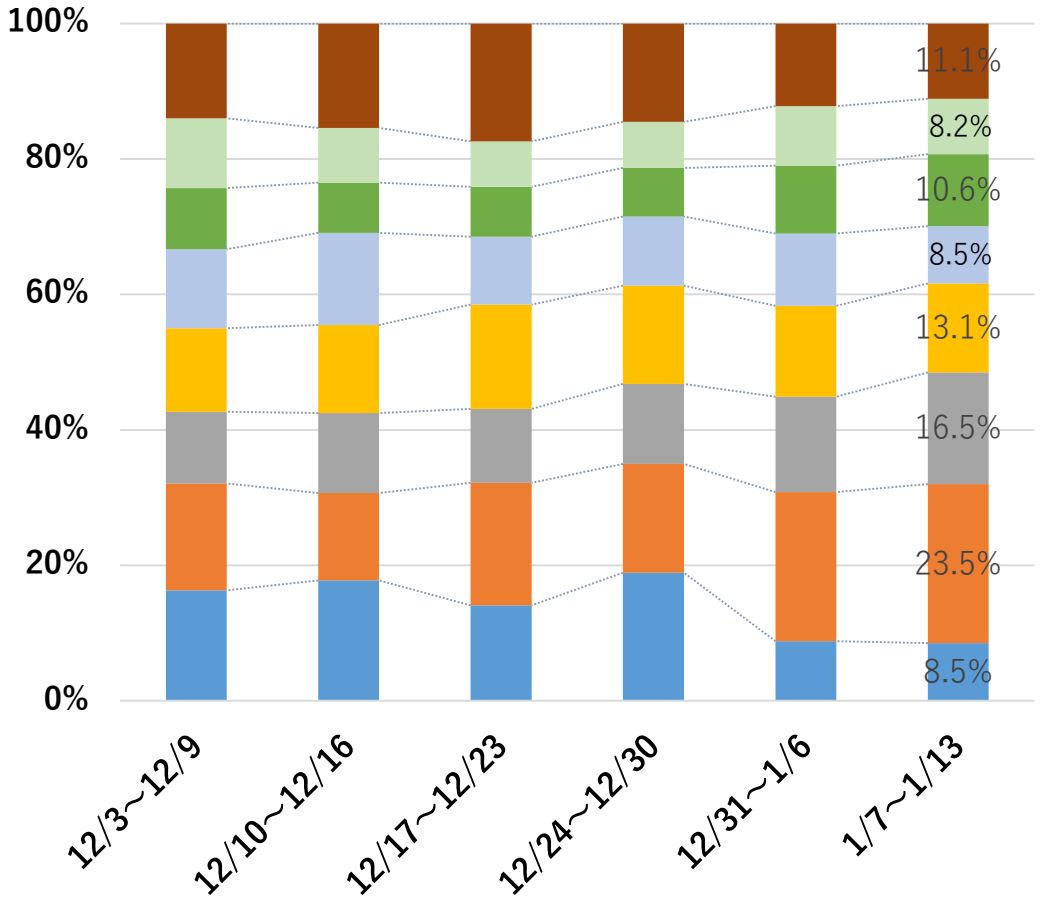
新規感染者数と重症患者数の推移

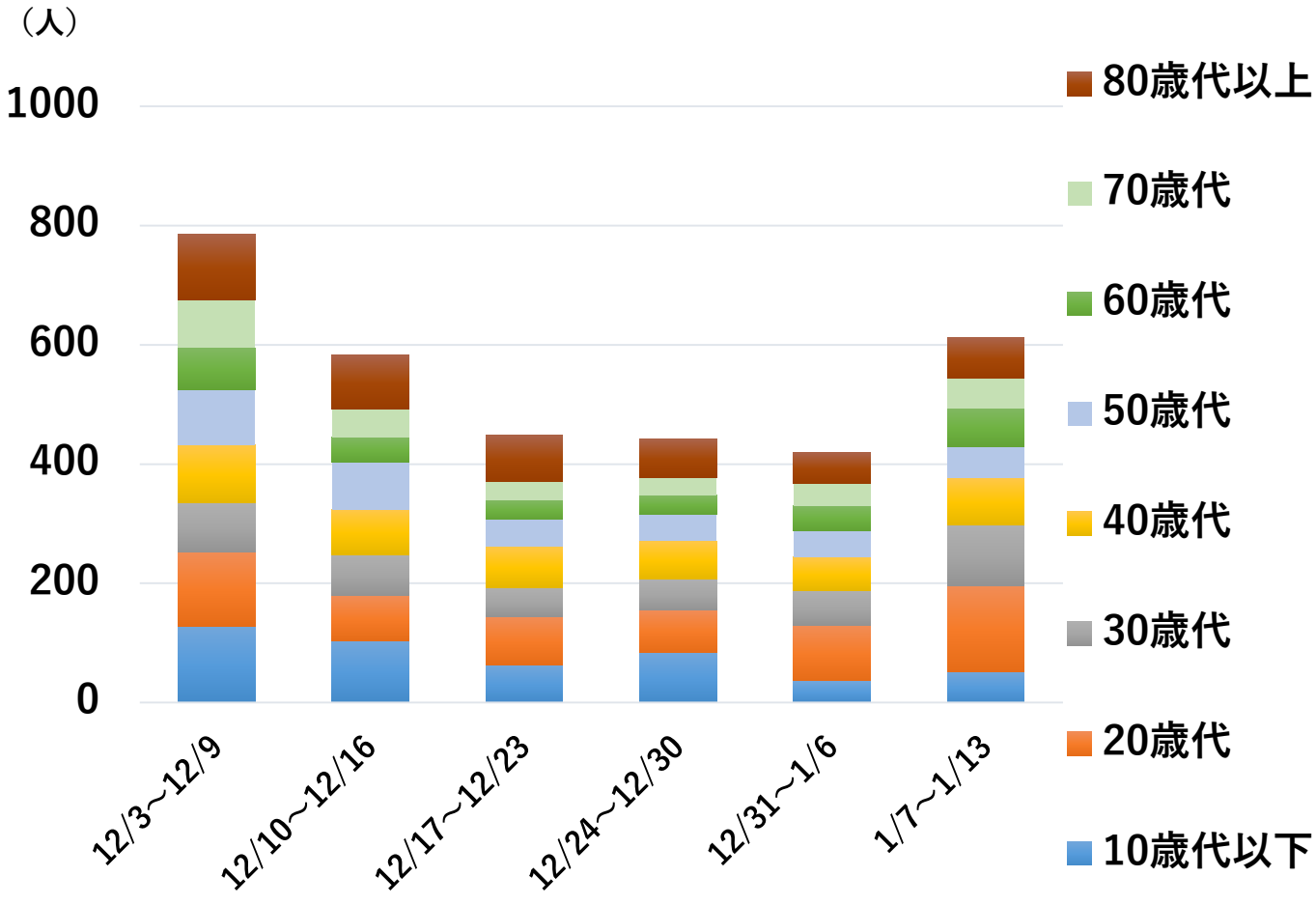


市内検査数と陽性率の推移



市内年齢別感染者数の割合



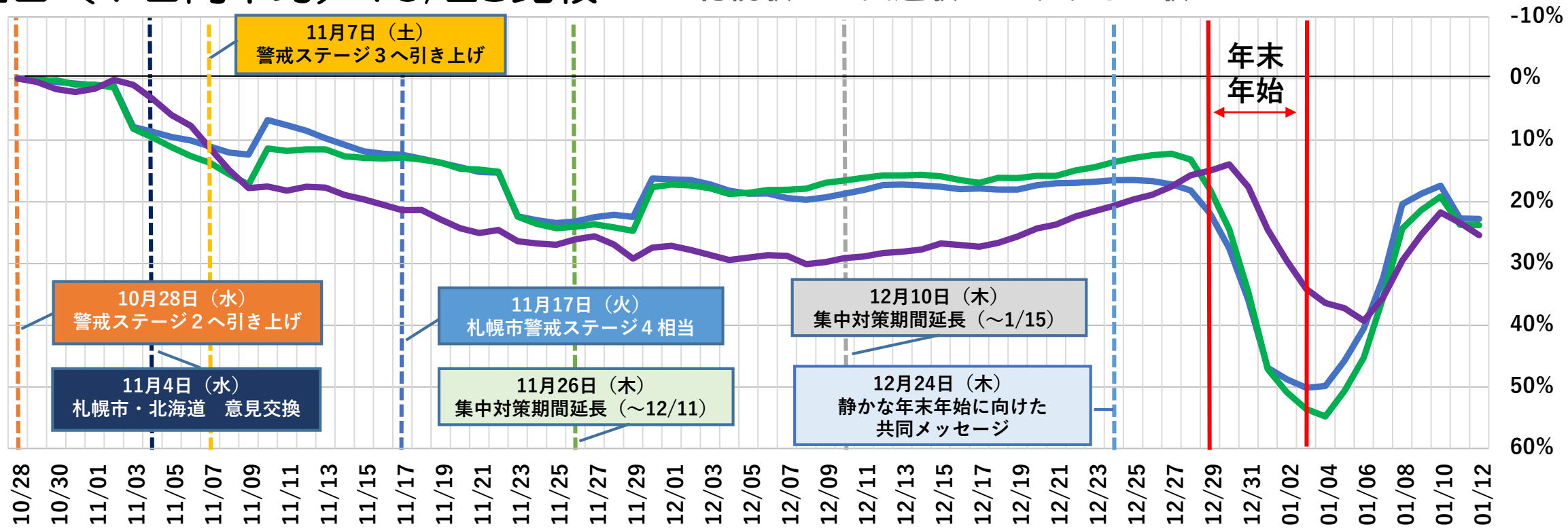


- 12月下旬から、40代以下の若い世代に感染の広がりが見られる状況

警戒ステージ２以降の人流の削減率①　都心部

※Agoop社提供データを元に作成

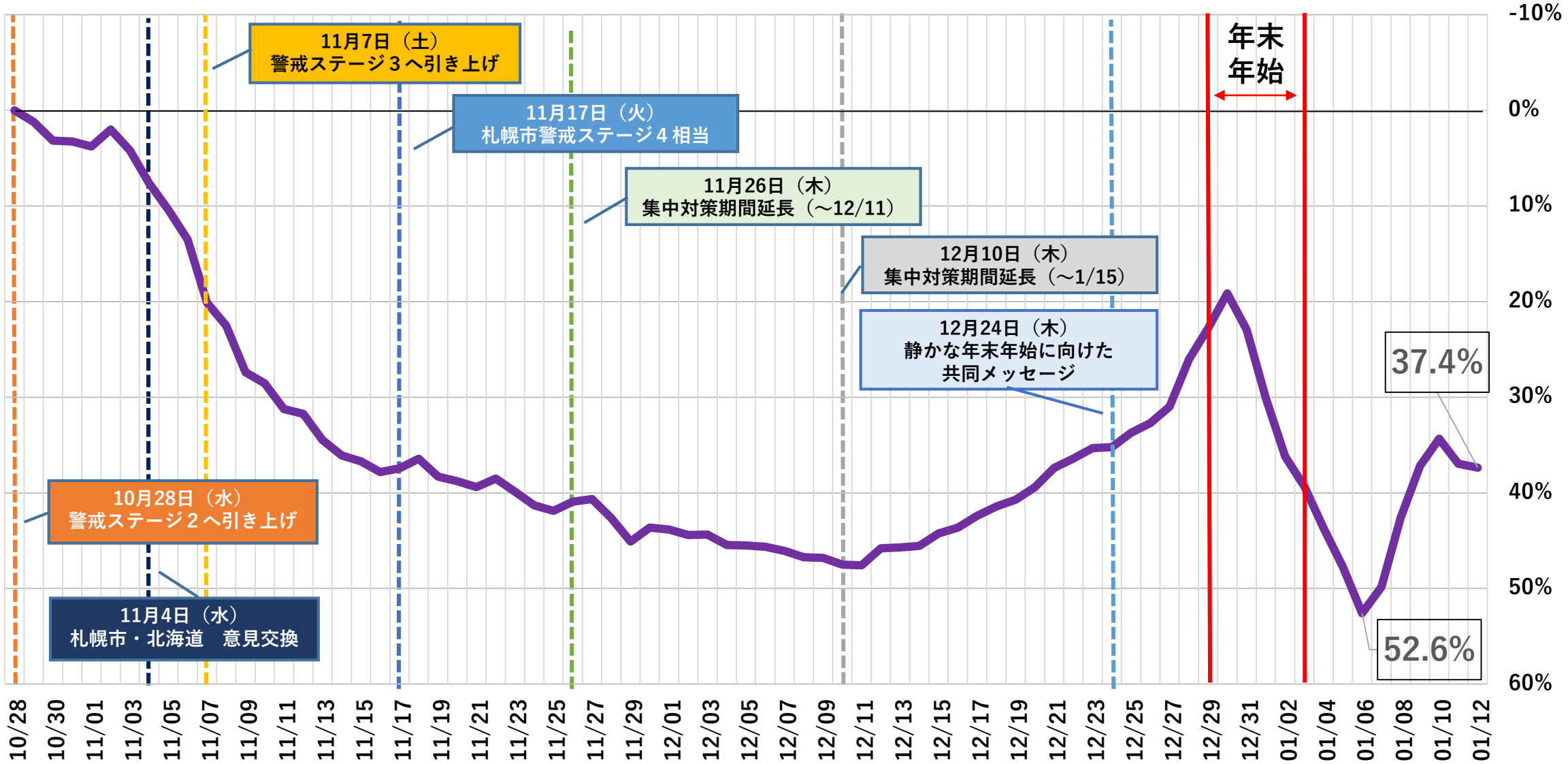
全日（７日間平均）10/28比較



- 札幌駅・大通駅の人の動きは、すすきの駅より削減率が低く推移しており、年末年始の休暇明けから増加傾向にある。
- 人との接触機会が増加すると、感染リスクが高まる恐れがあることから、感染防止対策の徹底が必要。

警戒ステージ２以降の人流の削減率②　すすきの夜間

午後10時時点（７日間平均）10/28比較



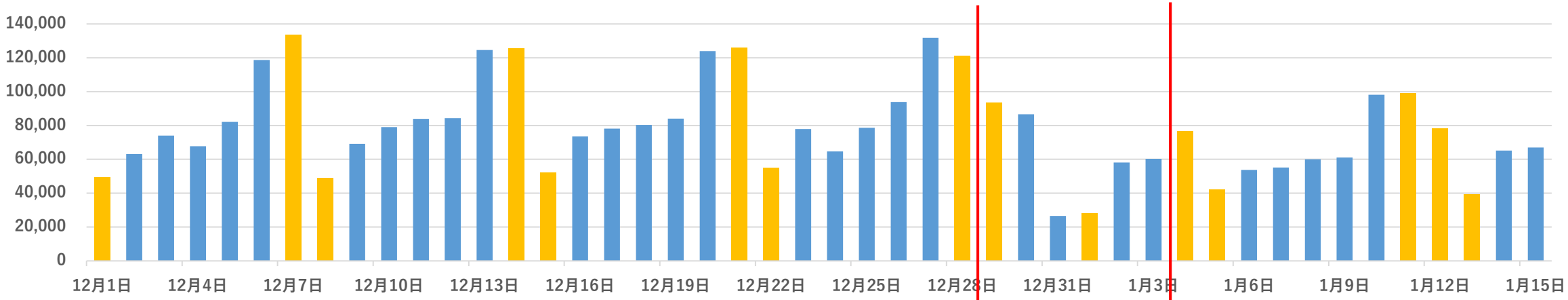
※Agoop社提供データを元に作成

人流の前年度比較（すすきの・12月～）

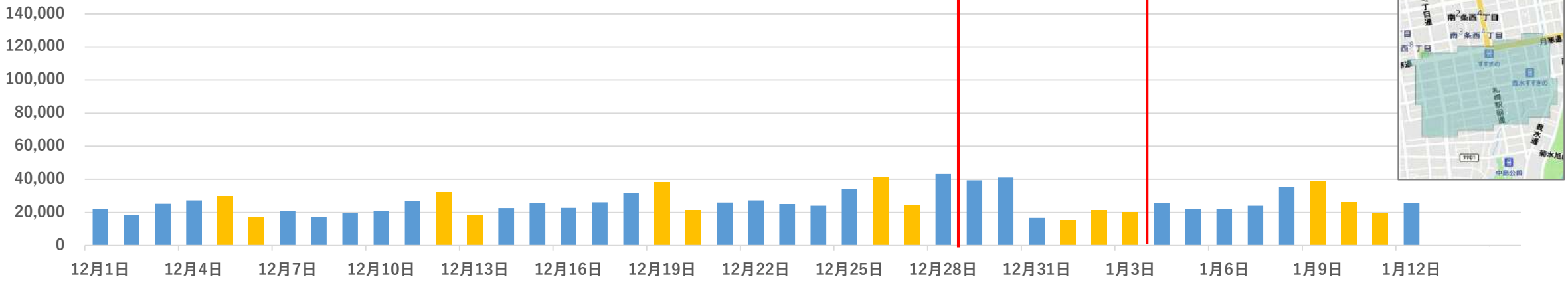
午後10時時点　前年同時期との比較

※Agoop社提供データを元に作成

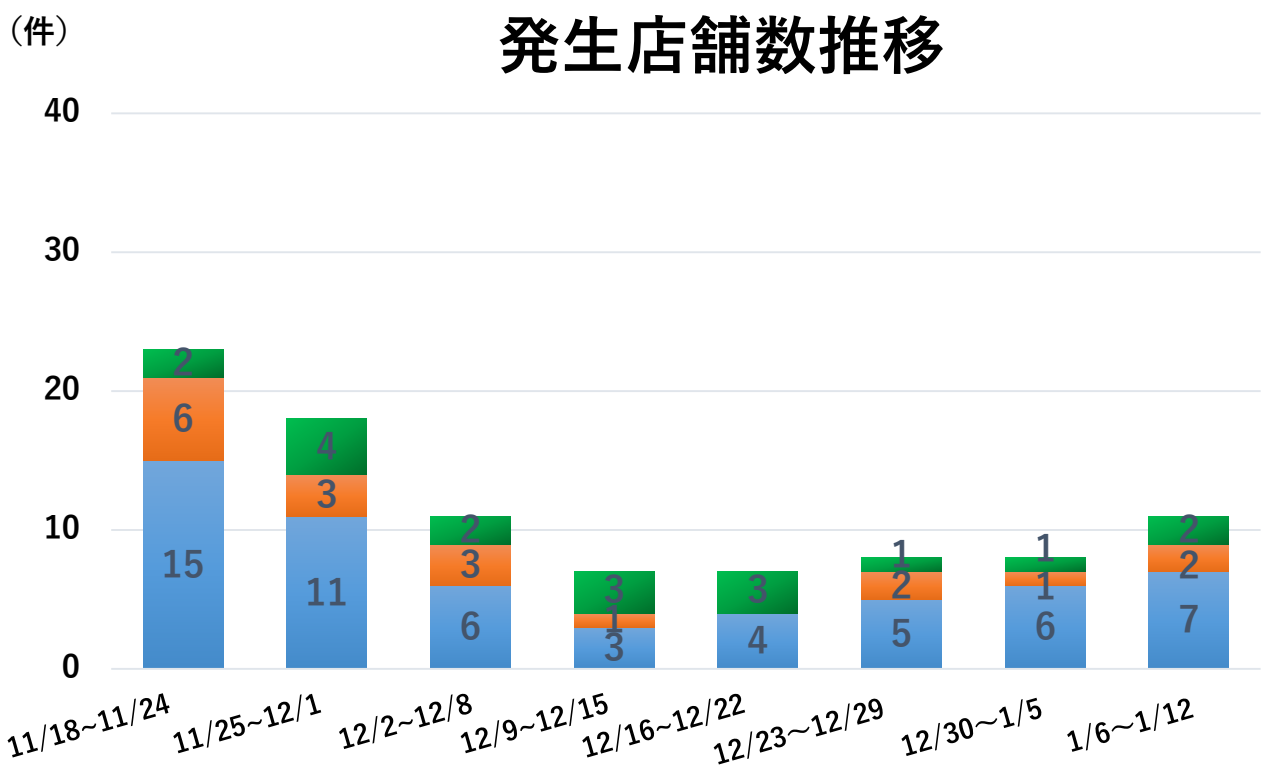
2019年度

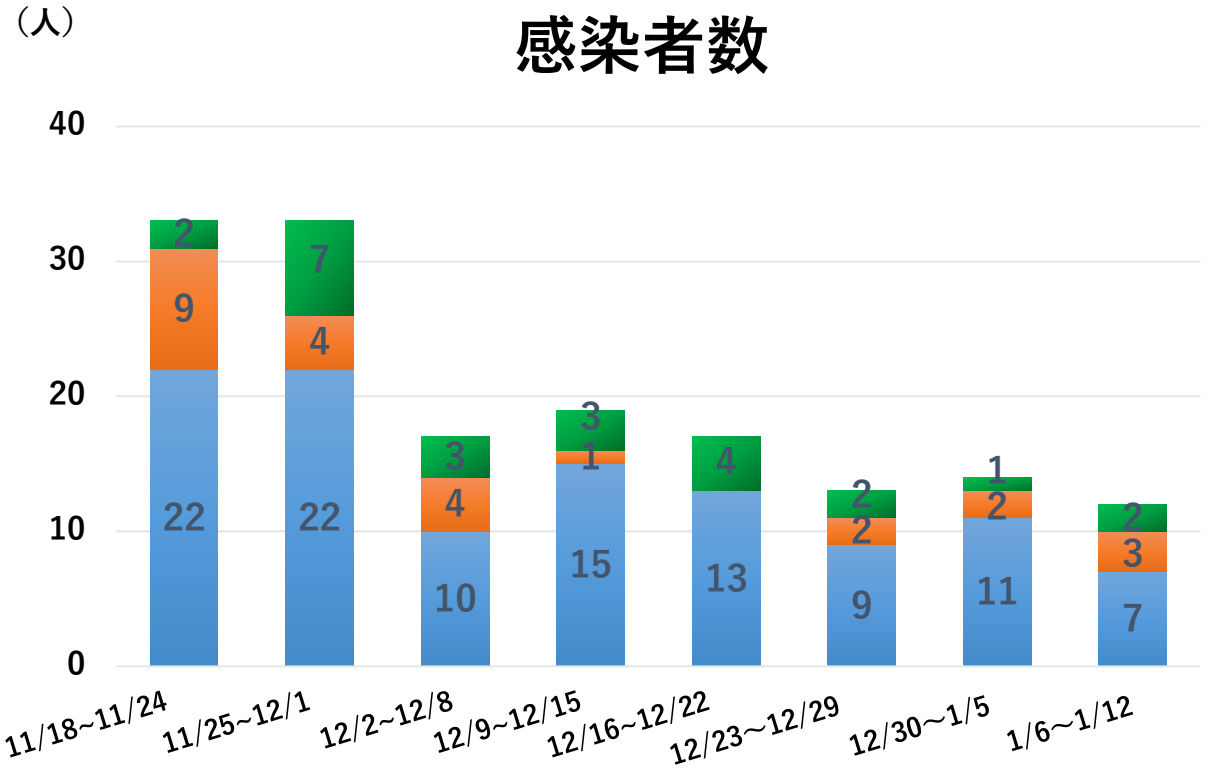


2020年度



営業時間短縮要請施設等における感染状況





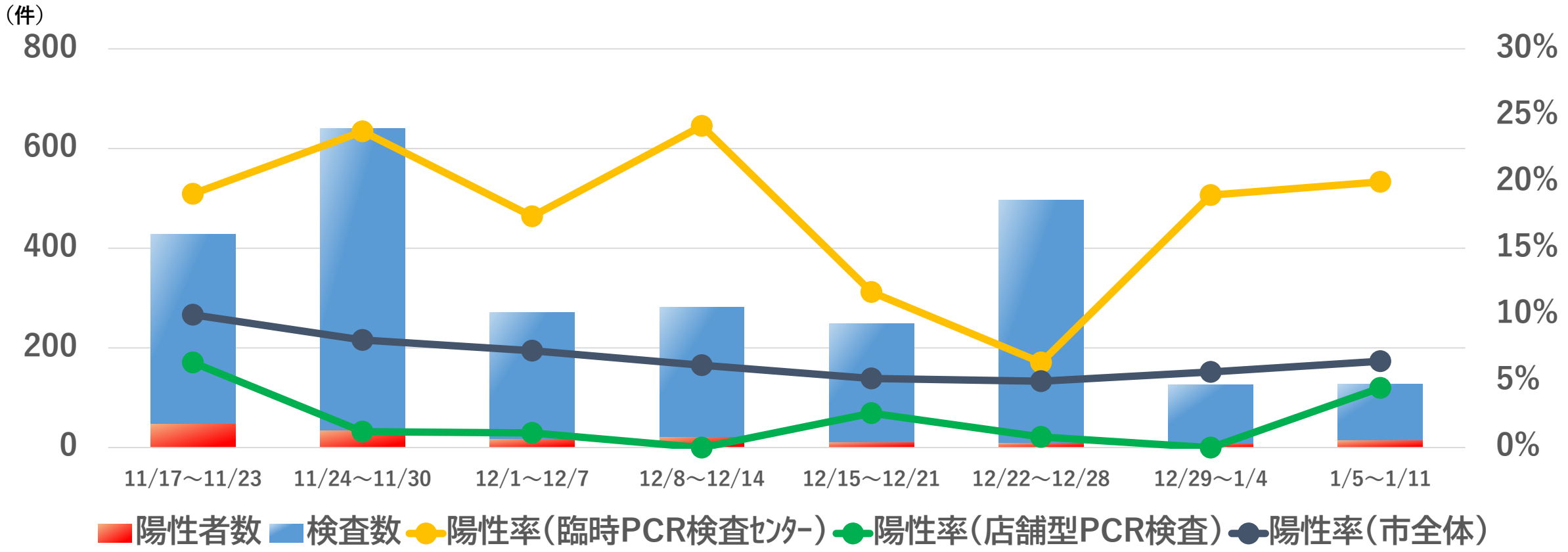
■①接待飲食店等　■②酒提供飲食店等　■③酒類提供料理店等

※　①ニュークラブ、ホストクラブ等　②バー、ナイトクラブ等　③居酒屋、ラーメン店、そば屋等

- 12月下旬以降、発生店舗数及び感染者数は横ばいで推移。一定数の感染者の発生が続いていることから、増加に転じることを防がなければならない

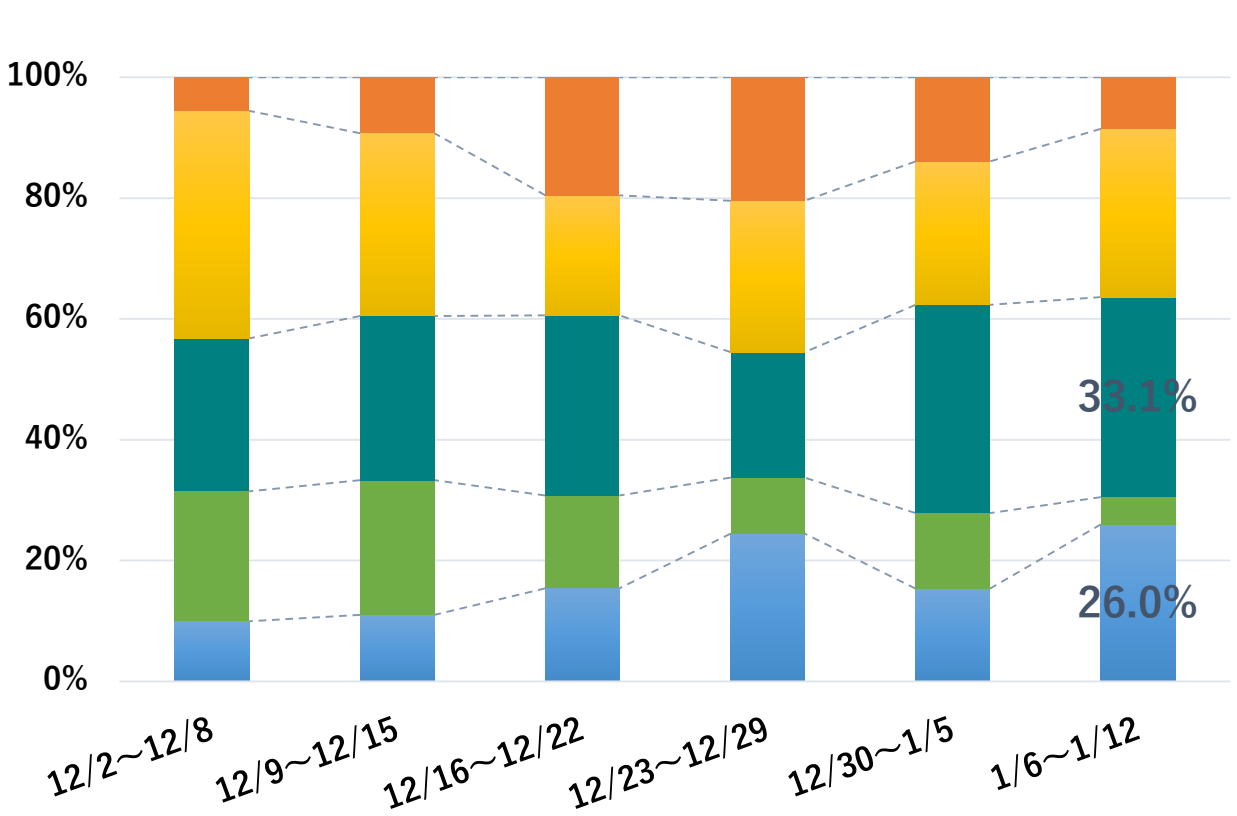
すすきの地区の重点的検査の状況

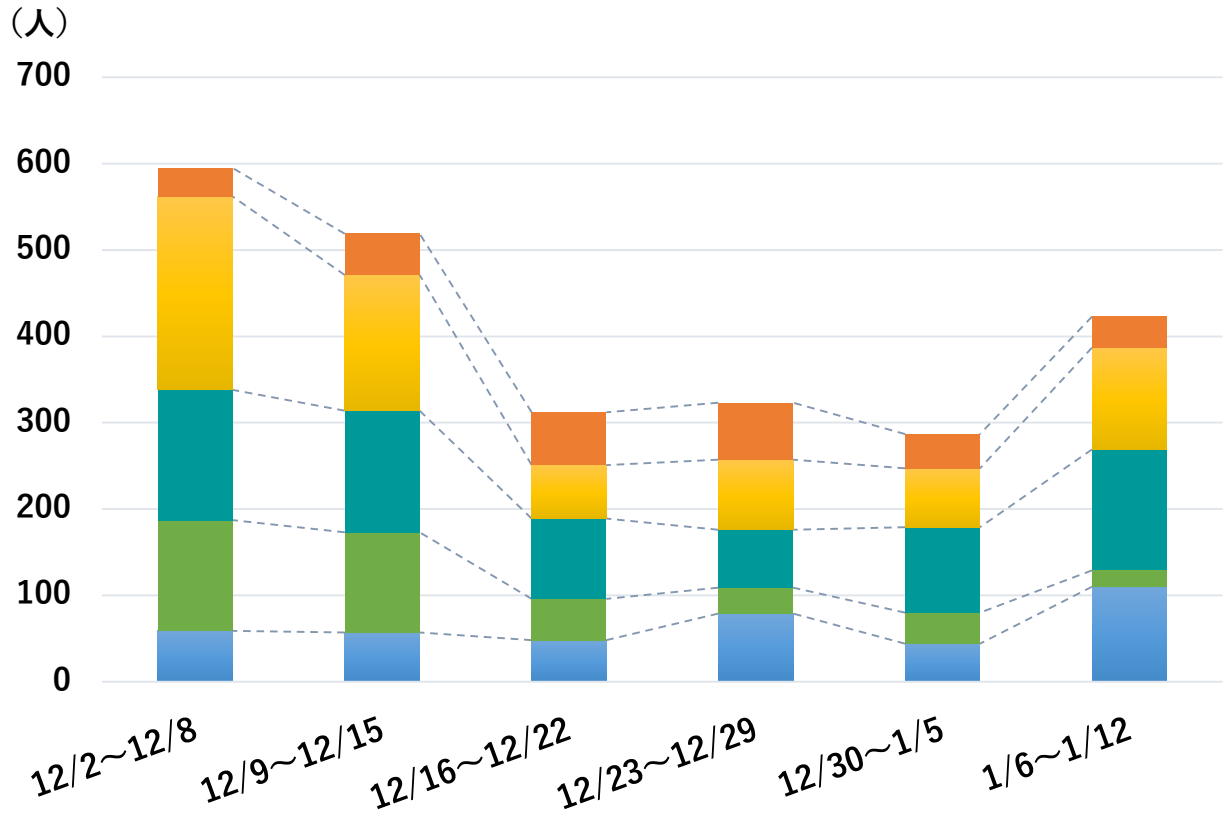
※臨時PCR検査センター及び店舗型PCR検査での検査数・陽性者数の合計



- **11月と比較すると陽性者数は減少しているが、臨時PCR検査センターの陽性率は高い傾向が続いており、重点的検査により、引き続き感染状況を警戒していく必要がある状況**

市内新規感染者（リンクあり）の感染経路





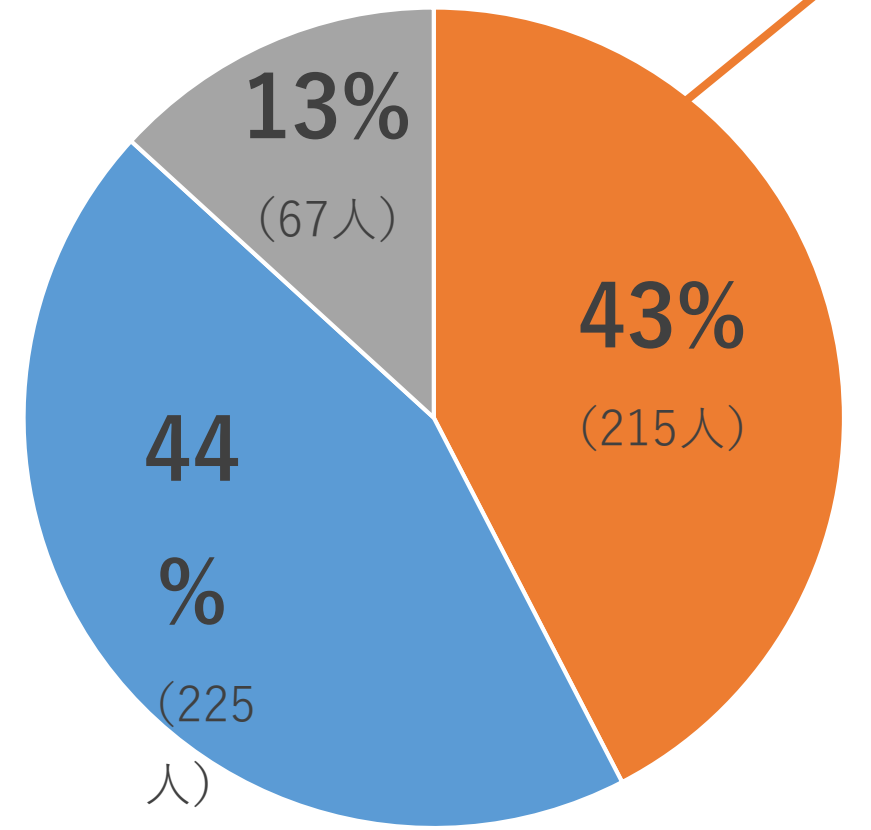
個人活動　会社・学校等　家庭　病院　福祉施設等

- 個人活動や家庭を経路とする感染が増加。年末年始の会食（家での飲食含む）や帰省といった共通の行動歴もみられている。

年始における新規感染者の行動傾向

【複数の人との飲食を伴う行動】

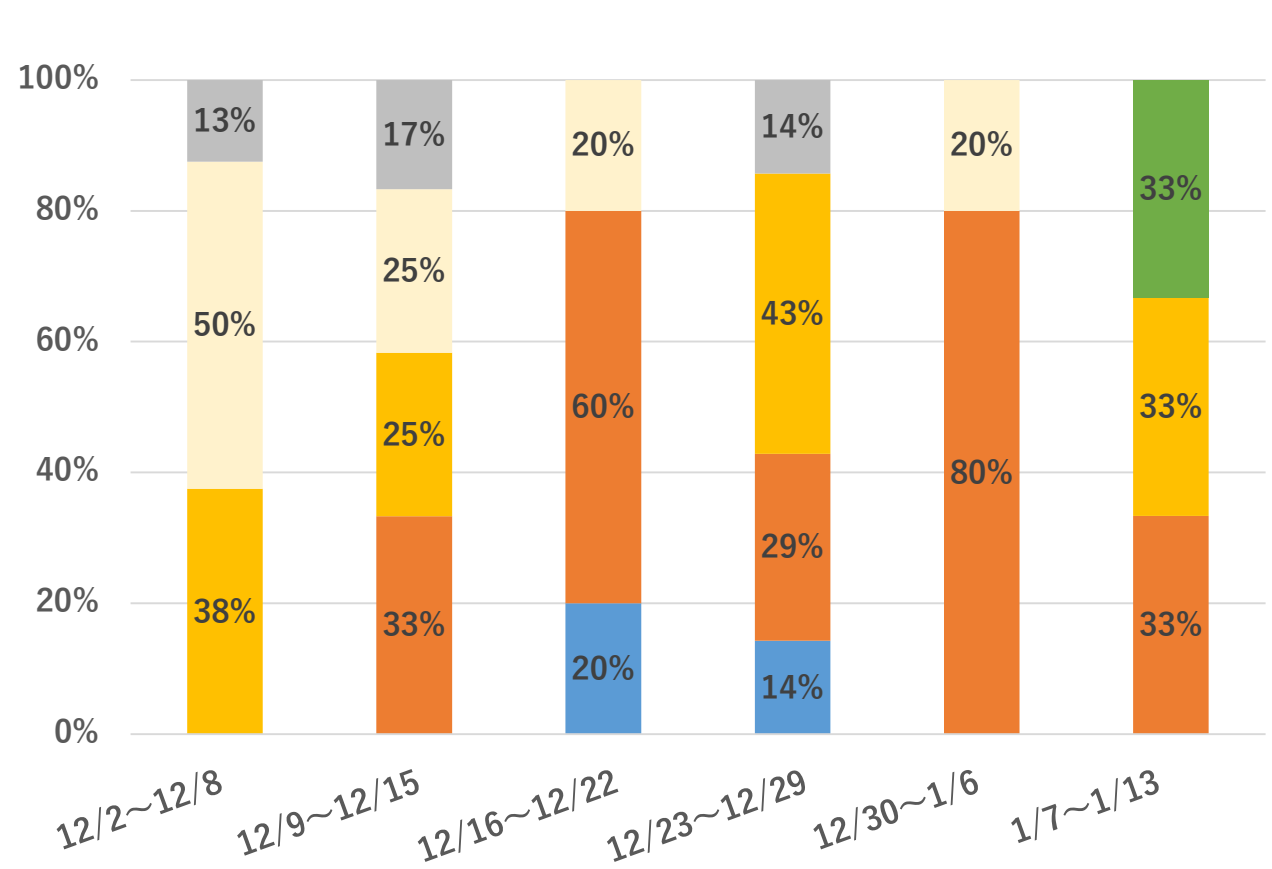
（1/1～1/8：507名）

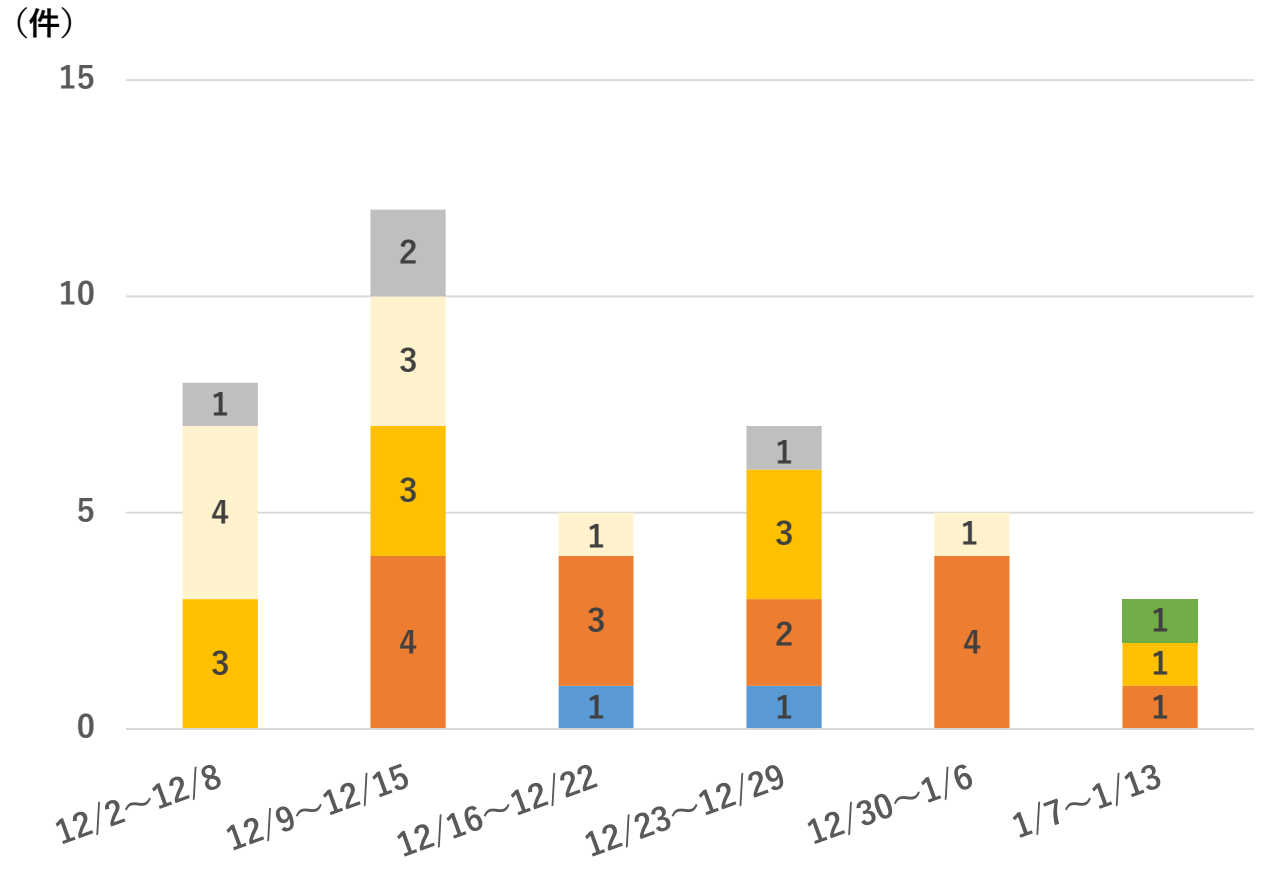


飲食の相手（複数選択あり）

	リンク無し	リンクあり
普段は別に暮らしている		
同居家族以外	93件（75.6%）	98件（56.0%）
別居家族	21件（17.0%）	28件（16.0%）
親戚	12件（9.8%）	10件（5.7%）
友人	48件（39.0%）	48 件（27.4%）
会社関係者	12件（9.8%）	12 件（6.9%）
普段から一緒に暮らしている		
同居家族	30件（24.4%）	77件（44.0%）

市内集団感染事例





接待を伴う飲食店等　福祉施設等　病院　会社　学校等　その他

- 発生件数は全体的に減少傾向がみられるが、年末年始の休み明けには社会活動が活発になることから、引き続き警戒が必要